

# 國學院大學學術情報リポジトリ

国際シンポジウム「『民俗学／民族学』のエクリチュール」（於日仏会館）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/0002000513">https://doi.org/10.57529/0002000513</a>

## 国際シンポジウム 「『民俗学／民族学』のエクリチュール」(於日仏会館)

2017年4月21日(金)と22日(土)の2日間にわたり、(公財)日仏会館と日仏会館フランス事務所の主催、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所の共催により、日仏会館において国際シンポジウム「『民俗学／民族学』のエクリチュール」が開催された。このシンポジウムは民俗学／民族学(ethnologie)と文学との密接な関係に着目し、日本とフランスにおける両者の相互関係について比較検討を行うことを趣旨としたものであった。シンポジウムの参加者は民俗学者、人類学者、文学者、歴史学者など多岐の分野にわたっており、本研究所からは遠藤潤と松本久史が参加し、報告を行った。

当日の概要は以下の通りである。

### 4月21日(金)

第1部は「学問と文芸の交差」と題して、アルバン・ベンサ氏(フランス国立社会科学高等研究院)、太田好信氏(九州大学)による報告が行われた。

第2部「近代学問の成立以前に遡って」では、アンヌ＝マリー・ティエス氏(フランス国立科学研究センター)「民間伝承の収集と近代国民文化の形成」(18・19世紀ヨーロッパ)、松本久史、長島弘明氏(東京大学)により報告がなされた。最後に作家の池澤夏樹氏による基調講演「民俗学と文学をつなぐもの」が行われた。

### 4月22日(土)

続いて第3部では「現地調査からテキストへ」と題して、福田アジオ氏(国立歴史民俗博物館名誉教授)、遠藤潤、ジャン＝ミシェル・

ビュテル氏(日仏会館・日本研究センター)が報告を行った。

第4部「民俗学／民族学と史料」では、フレデリック・ティンゲリー氏(ジュネーブ大学)、佐藤健二氏(東京大学)、岩田重則氏(中央大学)による報告が行われた。

第5部「民俗学／民族学の文学性」では安藤礼二氏(多摩美術大学)、ヴァンサン・デバンヌ氏(ジュネーブ大学)による報告が行われた。

最後の「ラウンドテーブル」では報告者が一堂に会し、分野と国籍を異にする研究者の間で民俗学／民族学と文学との関係や、日本とフランスにおける状況の違いなどについて活発な議論が交わされた。以上の2日間にわたる濃密な報告と議論は、越境的なシンポジウムの意義を感じさせるものだった。

本研究所の遠藤と松本の報告について簡単に概要を説明しておく、遠藤は「平田国学と門人たち—江戸と地方—」と題して、平田篤胤を中心とする平田国学の学問的営為を「旅」、「手紙」、「書物」という点から概観した。そして篤胤の著作は個人の作品というよりも気吹舎によるテキストの生産と流通という側面が大きいことなどを論じた。

松本の報告は「近世国学の展望—古典と民俗の再発見—」と題し、林家の役割や荷田春満による『創学校啓』の執筆などを通して国学の歴史を説明した。そのうえで四国の「犬神」民俗への注目など、国学にとって日本の古典とともに民俗へのまなざしが重要な意味を持っていたことを解説した。(松本久史)